

三條別院のご案内



三條教区 宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌

お待ち受け法要兼三條別院報恩講 厳修

二〇一〇年 十一月五日（金）～八日（月）

皆様のご参勤 ご参詣をお待ちしております

三條別院に想う

心 みたされるまで
花と話してくるがいい
まぶたが つらくなるまで
星を数えてくるがいい
そんなに急がなくても
走らなくてもいい
君には君の歩き方
生き方があるはずだ
今 君にしてやれること

父さんには何も無い
ただ ひとつだけ
君を待っていますよう

「待っているから」

二十年位前になるでしょうか。三條別院で黒坂正文さんのコンサートを聴いたのは。

黒坂さんの「待っているから」という曲を聴いたとき「待つことが大切なんだよね」と心の中で言いつつ、胸が熱くなるのを感じました。

当時幼い我が子に対し、私の思い浮かべる未来の立派なこの子にするために「今のこの子じゃ、まだ足りない。」と子育てをしていました。私は、黒坂さんの「待っているから」を歌いながら、私

の子育てを反省する日々でした。

「待つ」ことが出来ないのは、私の中で他と比べる「ものさし」があるからなのかも知れません。無数の「ものさし」が存在して良いはずなのに、私の「ものさし」はひとつ。その「ものさし」に足りない子どもが受け入れられない、「待つ」ことが出来ないのです。待っていたら間に合わないと思ってしまうのです。

「待つ」とは、子どもを信じていなければ出来ないことだと思えます。子どもがどんな選択をしようとも、どんな結果になろうとも、全てが子どもの人生のひとつのプロセス。「待つ」とは、子どもの人生を大切にすることだと思えます。頭では分かっているも子どもを「信じきれない、待ちきれない」これが現実です。

「待つ」というのは、ただ何もしていないという事ではないと思っております。花と話している子どもが車に引かれそうなら「危ない！」と叫ぶでしょう。星を数えている子どもが風邪をひきそうなら上着を掛けてやるでしょう。子どもの成長に必要な援助をしていくことだとも思っています。

私を待っていてくださる「阿弥陀様」。無条件で待っていてくださいます。ただただ「南無阿弥陀仏」です。

（第十八組 重蓮寺 関崎智弥 氏）

〇次回の「三條別院に想う」は、

大久保 州氏（佐藤組 廣永寺）より

「執筆いただきます」

■十九組 改観寺雑巾講

雑巾贈呈式が行われました

去る十月十三日（水）に、十九組改観寺雑巾講による、雑巾贈呈式が行われました。

当日は、日程を変更して、始めに会館一階会議室にて、別院職員による法話、その後、本堂に移り贈呈式をさせていただきました。三百六枚もの雑巾が贈呈されました。



この雑巾は、お講の皆様がお寺に集まり一枚一枚を手で縫われて

いるのだそうです。その心のこもった雑巾を奉仕団や日々の清掃等で大切に使わせていただきます。

■別院声明教室が終了しました



今年の別院報恩講はお待ち受け法要と兼修される為、同朋唱和によるお勤めが重視されており、それに伴い、かつて別院にて行われていた声明教室が再び開催されました。九月一日より始まった全五回の教室も十月二十日で終了。普段お勤めされる機会の少ない正

信偈 真四句目下、五洵の念仏和讃に苦戦しつつも、皆さん意欲的にご参加いただきました。

ご参加いただいた皆さんと報恩講にて朋にお勤めできること、また来年度の声明教室で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

■御命日（二十八日）の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」と称し本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけますので、ご参詣いただきますようお願い申し上げます。

また、各寺院の間法会・同朋会等にもご利用いただければ幸いです。

なお、今月は宗祖聖人の御正忌です。前日（二十七日）はお速夜として、午後二時よりお勤めをしております。

【十一月二十八日（日）】

午前十時 お勤め（御命日 日中法要）

文類偈 真四句目下

念 讚 洵五

和 讚 回口 次第六首

回 向 願以此功德

◎今月の法話講師

池田 陽 氏（第十八組 長周寺）

◇今後の法話講師一覧

十二月 鳴澤 宏誓 氏（第十九組 長福寺）

■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、同朋会館一階 事務所にございます宿泊者帳に記帳していただき、シーツクリーニング代としまして、五〇〇円いただいております。

また、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します

■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によって護持されてきました三条別院にお越しいたごき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇うことを通じて、ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となることを願い、奉仕研修会を開いてみませんか。

○日程及び内容について、「要望等」ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会をお申し込みいただく方（団体）へ、冥加金としまして左記のとおり頂きます。

◎冥加金

・日帰り 一、五〇〇円

・一泊二日 二、五〇〇円

◎食事代（昼・夕食は業者発注のため）

・朝食代 五〇〇円

・昼食代 一、〇〇〇円程度

・夕食代 一、三〇〇円程度